【レポート】

京都府の南に位置する八幡市は、国宝「石清水八幡宮本社」や名勝「松花堂及び書院庭園」をはじめとする指定文化財があり、特に桂川・宇治川・木津川の三川が合流して淀川となる「三川合流」という国内で他にほとんど例を見ない地形を有する地域でもあります。また、竹の種類も豊富にあり、アメリカの偉大な発明家であるトーマス・アルバ・エジソンが発明した白熱電球は本市の竹が使われ、白熱電球誕生のゆかりの地とされております。そのエジソンが発明した電球は今やＬＥＤへと移り変わっていきつつあります。八幡市は、「2050年ＣＯ２（二酸化炭素）実質排出ゼロ」をめざし、2022年２月28日付で「ゼロカーボンシティ宣言」をしています。市民のみなさま、事業者のみなさまと連携を図りつつ、地球温暖化対策に取り組んでいます。本報告では、私たちを取り巻く地球環境、とりわけ地球温暖化対策に向けた取り組みとして、環境教育の推進について次世代を担う世代、特に就学前児童を対象とした環境教育の推進事業について報告します。

環境教育の推進の取り組みについて

京都府本部／八幡市職員労働組合　川口　恭子

1.　はじめに

八幡市の人口は、2024年５月１日現在68,921人で34,150世帯です。そのうち就学前児童数は、2,799人（約４％）です。

この比率は、多いのか少ないのか、みなさまの「まち」ではどうでしょうか。

持続可能な社会を構築するため、私たちの「まち」八幡市では、2005年より環境政策の側面から環境教育を積極的に推進しています。

2.　具体的に

八幡市環境基本計画の推進を目的として、市民・事業者・行政などからなるパートナーシップ組織「八幡市環境市民ネット」のメンバー（会員数17人※2024年度）が扮する地球レンジャーが、環境をテーマとしたオリジナルの大型紙芝居を作成し、市内保育園・幼稚園で、上演や環境クイズによる環境教育を実施しています。

大型紙芝居のサイズは、おおよそＡ０サイズ（1189×841㎜）となっており、材質は画用紙素材で主に絵具で描かれています。一作品10枚くらいを使用して紙芝居を上演しています。

このサイズで紙芝居を上演していることはとても珍しく、子どもたちや幼稚園・保育園の先生方に、とても喜んでいただいています。

この紙芝居を作成し、上演している地球レンジャーの年齢層は、60歳代から80歳代の方々が中心で、中には90歳代の方もおられる超ベテラン揃いの団体です。

団体は、2002年８月に発足され、2005年から今日に至るまで約20年間にわたって活動されています。

発足当時大型紙芝居を見てくれていた児童が成人を迎える年齢に達するくらいの年月をかけて継続した環境教育を推進していくことの成果を数値で表すことは容易ではありませんが、幼少期から環境のことを知り、考え、学ぶ機会を持つことができることは、今後の成長過程で地域や環境に必ずや何かしら影響を与えることになると考え行っています。

また、2024年度は、新たな試みとして包括連携協定を締結している摂南大学の学生のみなさんと連携し、八幡市内の保育園・幼稚園等に通う就学前児童に対しての環境教育を充実させることを目的に「食品ロス削減」をテーマにした環境絵本の作成を企画しています。

紙芝居及び環境絵本づくりともに、一から脚本を考え、手書きで絵も書くなど、完全オリジナルなものに仕上がっています。物語を考える過程で交わす議論が創り手にとっても、大変勉強になり、力が身に付きます。

創り手の学びが深まるごとに、聞き手となる児童たちへのメッセージもより深く厚みを増すことになり得ると思っています。

3.　他の取り組み

小学生を対象にした取り組みにつきましては、環境教育の副読本として役立てていただけるよう環境学習ハンドブックを作成し、市内小学校に通う小学４年生に配布しています。

また、環境意識の向上を図るため、環境学習（やわたエコかるた体験）、再生可能エネルギーを利用した工作の体験事業を実施しています。

4.　「やわたエコかるた」とは

八幡市の名物や名所をふんだんに用いて、環境について楽しく学べるツールとして2001年度に「やわたエコかるた」を作成しました。

読み札は、全国から寄せられた約1,200点もの応募作品の中から選び、絵札は、「八幡市環境市民ネット」のキャラクターたちも登場し、親しみやすく可愛くて楽しいデザインに仕上げています。

この「かるた」は、環境学習に役立てていただけるよう、市内保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校に配布しています。また、市民向けの出前講座でも活用しています。

そして、「やわたエコかるた」第２弾作成を目標に、研修やイベント、出前講座などで「読み札」づくりも実施しています。

「子どもから大人まで環境について楽しく学べる」をキャッチフ

レーズにして「やわたエコかるた」を様々なところで実施していると、三世代交流の場にもつながるアイテムであると改めて感じています。

一枚でも多く「絵札」をとることが勝利となる遊び方もありますが、その時その場でのルールを設け、「読み札」に込められたメッセージを聴いてもらうため、例えば、最後まで「読み札」を聴いてからでないと「絵札」に手を付けてはいけないというルールを設定することがよくあります。そうすることにより、年齢差等があってもなかなかいい勝負になります。

みんなが夢中になり、喜んだり、悔しがったり、「読み札」や「絵札」に感心される場面があったり、「読み札」を読む私もとても楽しい気分になります。

また、まだ字を読むのが難しいお子さんなどには、「絵札」に描かれている絵の内容を伝えて参加してもらっています。

5.　課題等

環境政策の中で、環境教育の推進は、みんなで取り組む環境活動として進めていますが、大きく地球温暖化対策や環境保全を進めていくには、市内での環境活動の取り組みを進め、市民一人ひとりが意識と行動をこれまで以上に高めることが重要です。

未来の地球環境を担う、子どもたちに対しての環境教育の取り組みは、着実に継続していくことや市内の自然環境を活用した自然観察会などの開催を充実するなど、住んでいる「まち」のことを知ること、それは、モノやタテモノだけでなく、ヒトも含めて、愛着を持ってもらえる「まち」づくりが大切であると思います。

各都市にはそれぞれの「まち」の在り方があると思います。「まち」はヒトや自然が作っていくものでもあります。八幡市においても「第５次八幡市総合計画」の環境面における部門計画として、「第３次八幡市環境基本計画」を策定し、今後の八幡市の環境行政に関して、良好な環境を保全・創出することをめざし、地球環境、生活環境、自然環境、環境活動等の分野における基本的な方向性を定めています。

その中には、望ましい環境像や基本方針が示されています。行政だけではみなさんが望む環境像を描くことはできません。市民、事業者、市（行政）それぞれができることをやっていくことが持続可能な「まち」づくりにはかかせないことだと思います。

絵にかいたもちのように現実的ではないように思えますが、やはり、一つひとつ地道に着実に行っていくことが次世代を担う子どもたちに向けての贈り物になるのではないかと考えています。

6.　まとめ

就学前児童に対する環境教育の推進事業では、現在進行中ですが、「食品ロス削減」をテーマとした環境絵本づくりを、学生のみなさんが中心となり、脚本や絵について議論をしつつ進めています。

子育ての方法や教育方針等の考え方も変化をし続けています。「食品ロス削減」をテーマとした場合でも「もったいないな」と感じる気持ちは大事ですが、教育として食べ残ししないことを強いることは好ましくないため、無理のない楽しい自分流の食品ロス削減の方法を見つけていくことが大切であるというメッセージを発信していくことになります。

私が小学生のころを思い起こしますと、給食を全部食べ切れるまで机の上を片づけることはなかなか認められず、教室の掃除の時間までポツンと一人取り残されていた覚えがあります。当時から食べ物を大切にして、食べ残しのないようにすることの大事さの学びは現在も変わりはないのですが、特に食べ

物の好き嫌いをなくすことも大事であり、みんなと同じであることも大切なことだったように感じています。

このレポート作成を通して、給食を提供していただいていた調理員のみなさまや食材を提供していただいた生産者のみなさまに対し、改めて感謝の気持ちを込めて振り返ることができています。ありがとうございます。

現在は、様々な場面で多様性を認めあう社会という考え方が広がってきていると思います。個性を大事に他者を認め合うことを大切にすることで、誰もがいきいきと暮らせる生きやすい世の中にしていけるように考え方も変化してきています。

環境絵本に関わらず、環境教育を推進していくうえで多様性を念頭に置いて取り組みを進めていきたいと思います。

最後に、環境問題の課題解消に向けた取り組みは、一人ひとりがしていることは小さなことでも、その小さなことをみんなで行えば、いずれ大きく変わっていくものだと信じています。

だからこそ、日々の一つひとつの小さな環境活動が大切なことだと思います。すでに色々と行動している方も含めて、みなさんで一緒に次世代を担う子どもたちのためにも環境にやさしい取り組みをすすめていきましょう。